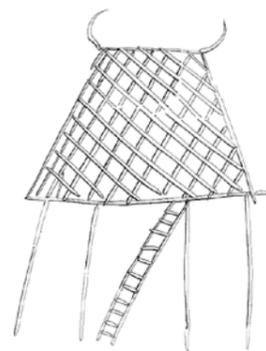


# はしご みせいひん 刻み梯子未成品



梯子を表現した絵画土器  
(第33次)

時代：弥生時代後期

調査名：唐古・鍵遺跡 第55次調査

発見年：1994年

大きさ：全長139cm、幅19.3cm

樹種：ヤマグワ

秋季企画展「弥生遺産Ⅱ～唐古・鍵遺跡の木製品～」の補遺として、皆さまから実物を見たいとのリクエストが寄せられた「刻み梯子の未成品」を展示します。

この梯子は、環濠に水漬けされた状態で出土しました。製作途中の状態であり、側面には樹皮が残っています。表面には足掛けが削り出されており、完成まであともう一歩というところでしょうか。足掛けは、側面から見て上部を直角に、下部を斜めに切り込むことが一般的です。また、梯子の下部を<sup>とが</sup>尖らせたり、逆凹字形に削り込んだりするものもあります。これは、梯子の下端部を直接地中に埋め込むための加工であると考えられています。

大阪府にある八尾南遺跡の竪穴住居跡（一辺約8mの方形で深さ約1m）では、住居の壁に立て掛けられた状態で梯子が見つかり、使用例のわかる貴重な事例です。

梯子は、高床建物の存在をも裏付けるものであり、床高や建物の規模を考察する上で重要な鍵を握っているといえます。



唐古・鍵遺跡（第55次）梯子未成品出土状況（左）

八尾南遺跡 竪穴建物9 梯子出土状況（右）

写真：（公財）大阪府文化財センター所蔵

※直径20cmほどの丸木を削り出して作られており、足掛けは3段あります。

